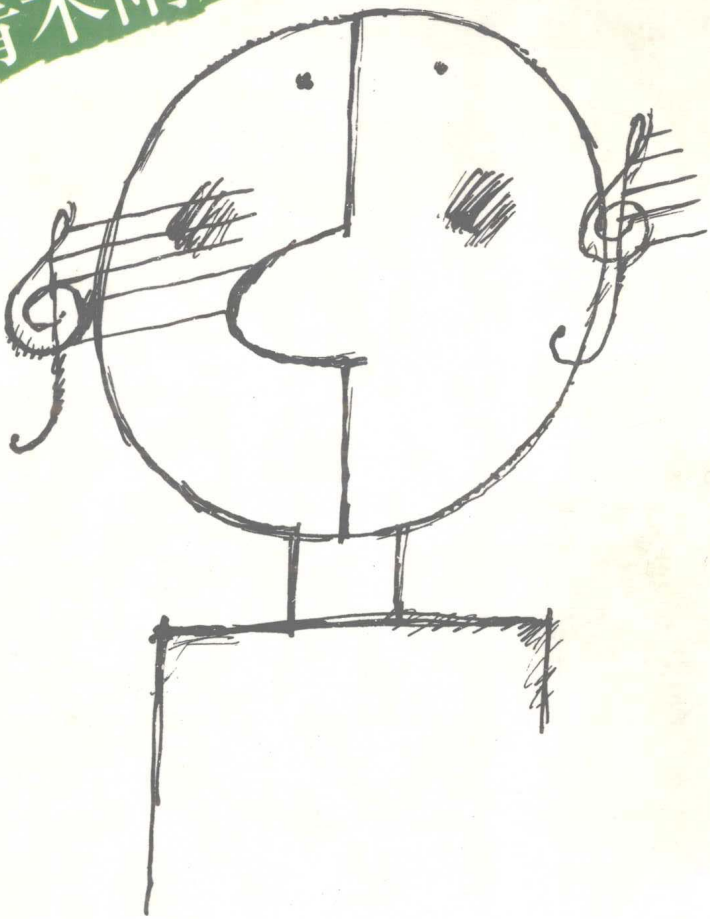
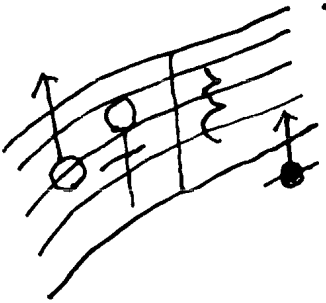
男と女のト音記号

青木雨彦



男と女のト音記号

青木雨彦



講談社

青木雨彦
1932年横浜生まれ。1955年早稲田大学文学部卒業。新聞記者、編集者生活を経て、現在、インタビュアー、コラムニスト。著書に「夜間飛行」「課外授業」（日本推理作家協会賞受賞）「にんげん百一科事典」「優しくなければ……」「反道徳精神のすすめ」「人間万歳」「大人の会話」「つき合い方知ってますか」などがある。

男と女のト音記号
昭和五十六年三月二十日　第一刷発行

著　者　青木雨彦
発行者　野間惟道
発行所　株式会社講談社
東京都文京区音羽二―一二―二一／郵便番号一一二
電話東京（〇三）九四五―一一一一（大代表）／振替東京八―三九三〇
印刷所　信毎書籍印刷株式会社
製本所　株式会社堅省堂
定　価　八九〇円

落丁本・乱丁本はお取り替えいたします
© Amehiko Aoki 1981　Printed in Japan

0095-168812-2253 (0)　（文1）

目

次

男らしさ、女らしさ　8
心やさしい女たち　10
冷蔵庫って何だろう？　12
ボキャブラリーの問題　14
娼婦の思想？　16
女房は達者で……　18
わが内なる差別意識　20
土産もの考　22
なぜ女は……　24
二人いっしょ　26
女だから、信じる？　28
たぶん女だから……　30
一票の差　32
役者やのオー　34
男もすなる浮気について　36
当世女子大生談議　38
わが恋　40
嫁と姑　42
多少の縁　44
忍耐の限界？　46
続・嫁と姑　48
「おまえ」と「あなた」　50
お世辞について　52
女のウソ・男のウソ　54
ダメなのはどっち？　56
新・雨夜の品定め　58

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook

処女と童貞 60
若い気 62
母性本能・父性本能 64
美しさについて 66
女に向かない職業 68
理由なき離婚 70
頭を使う 72
ダメ男・ダメ女 74
賭けと負け 76
どっちが幸せ? 78
杓子定規 80
カスガイの身 82
男の自立 84
男になる 86
鏡よ鏡よ 88
土瓶野郎 90
家庭の幸福 92
女はケチか? 94
二者択一 96
悪女バンザイ 98
女の友情・男の友情 100
浮気の言いわけ 102
それでも男か 104
それでも女か 106
女の浮気 108
男の敵は…… 110

女性の上役 112
女房の好きな 114
くさるなア 116
無意味の意味 118
女は海ィ 120
女のマナジリ 122
だまし、だまされ…… 124
男の子・女の子 126
わからない 128
理想の女性像 130
ああ、サラリーマン 132
対等と平等と 134
チビる 136
続・浮気の言いわけ 138
歯刷子テスト 140
男性差別 142
マイ・ショック 144
……感じる 146
女房の出産 148
痴漢について 150
泣かせる話 152
考える人 154
働く 156
ああ、皿洗い 158
昭和ヒトケタ男 160
なぜ? 162

女の敵・男の敵 164
愛してる 166
新・響きと怒り 168
男の条件 170
出腹可愛や 172
ああ、召し使い 174
浮気のライセンス 176
身籠る 178
蒸発の条件 180
産む・産まない 182
戯れに離婚など…… 184
マン・プライス 186
好きか嫌いか 188
男は…… 190
バカねえ！ 192
男に向かない…… 194
構造のちがい 196
電話作法 198
方向オンチ 200
言う口・聞く耳 202
匹夫の勇 204
うしろ姿 206
午後五時の翳 208
書きますわよ 210
冗談じゃない！ 212
抱く・抱かれる 214
あとがき 216

装幀　和田　誠

男と女のト音記号

男らしさ、女らしさ

「男らしさ、女らしさ」

ということが、わからない。どうして、男は男らしく、女は女らしくなければいけないのか？

もともと男は男らしくなくたって男だし、女は女らしくなくたって女だろう。そう思ってしまう。

しかし、こういうふうに考えてくると、

「男は男らしく、女は女らしく……」

と言われている時代は、男が男じゃない時代、女が女じゃない時代なんではなかろうか——ということに思い当たる。ホントのことを言って、このオレは男なんだろうか？

そう言ったら、

「そんなことをウジウジ考えていることからして、男らしくないわ」

と嗤(わら)われた。

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook

「あなたも男なら、男らしく、そんなくだらないことを考えるのは、おやめなさいな」

言われて、

「なんて男らしいひとなんだろう！」

と、感心した。男でなけりゃ、なにごともこういうふうにはスパッと割り切れないだろう。

だが、現実には、スパッと割り切ってみせたのは女のひとなんだし、割り切れなくてウジウジしているのは、男のわたしである。女のひとのほうがよっぽど男らしくて、男のわたしのほうが、よっぽど女らしい。

そんなわけで、

「男らしさ、女らしさ」

というのは、どうもアヤフヤである。早い話が、女のひとのほうが男らしくて、男のわたしが女らしいんじゃ、昔のサムライみたいに、

「男らしい男」

と言われている男は、どうなっちゃうんだろう。

ひょっとしたら、男らしい男というのは、ホントは女なのではないかしら？

心やさしい女たち

男七三・四六歳
女七八・八九歳

というのが、日本人の平均寿命だそうな。どういうわけか、世界的にも、女のひとのほうが寿命が長い。

男と女と比べて、

「なぜ、女のほうが長生きをするか？」

というと、これはもう、たいへんな問題で、

「なぜ女のほうが長生きをするかがわかるくらいなら、なぜ人間がトシをとるかもわかるんじゃないか」

という学者もいるほどだ。ついでに、なぜ人間が死ぬかもわかっちゃうんじゃないかしら？

それにしても、オスとメスの寿命がちがうのは、人間とカマキリくらいのもので、

「ほかの動物は、ほぼ平均している」

というから、面白い。メスに処女膜があるのは人間とモグラだけだそうだから、人間はカマキリにも、モグラにも似ているわけだ。

が、それはそれとして、人間のメスとオスと比べて、

「なぜ、メスのほうが長生きをするのか？」

ということについては、諸説ある。もともとメスのほうが肉体的にも優れていて、

「病気に対する抵抗力も強い」

というのも、一つの説だ。

しかし、そのなかで最もポピュラーな説は、なんといっても、

「社会的に、危険（リスク）に立ち向かう機会が少ないからだ」

という説だろう。要するに、男は社会に出て、ストレスにかかる率が高いから、それだけ長生きできないのである。

こうしてみると、女のひとたちが、

「女も社会に出なければならぬ」

と主張しはじめたのは、

「女も、男と同様に、早く死にたい」

と言っているのだ——ということが、よくわかる。心やさしいことである。

冷蔵庫って何だろう？

たとえば、冷蔵庫だ。

「あれ、なんのためにあるか？」

と尋ねたら、

「そんなことも知らないのか！」

と笑われるのがオチだろう。モチロン、食べものなどが腐るのを防ぐため、台所に置いておくのである。

しかし、ホントにそうだろうか？　家庭の冷蔵庫は、ひょっとすると、腐りかけた食べものなどを仕舞っておくためにあるのではなかろうか？

ウソだと思うなら、女房に内緒で冷蔵庫の扉をあけてみるがいい。世の亭主たちは、そこに、意外なものを発見するはずである。

――日曜日の午後、たまたま一杯やろうとして、

「なにか、酒の肴はないかな」

と、冷蔵庫をあけた奴がいる。そして、彼がみつけたものは、腐りかけたハムやソ

ーセージだった。いつ買ったかわからないようなトウフやアブラゲだった。
「ウッ！」
思わず鼻をつまんで捨てようとしたら、
「あなたッ」
天から声あり。
「なにをなさるんですか？」
そこで、
「捨てるのさ」
答えたと思い給え。
とたんに、彼、女房から「モッタイナイ」と叱られたそうな。
「モッタイナイって、きみ、こんなもの、食べられるのかね？」
訝る彼に、女房ドノの言ったセリフがよかった。そのとき、女房、少しも騒がず、
「でも、まだ完全には腐ってないわ」
そう言ったのである。
そんなわけで、やはり、冷蔵庫とは、腐りかけた食べものを大事にとっておく場所らしい。

ボキャブラリーの問題

亭主が飲んで遅く帰ろうものなら、女房の言うセリフは決まっている。これはもう、ハンで押したように、

「自分だけいい思いをしてきてエ……」

と、詰るのである。

飲んで帰ったからといって、いい思いをしてきたとは限らない。ときには課長に呼ばれて、コンコンと諭される夜だってある。ときには接待を仰せつかって、身も心も疲れ果ててしまう晩もある。

それなのに、

「自分だけいい思いをしてきてエ……」

とは、何事であろうか？　そりゃあ、たまには自分だけいい思いをしたいなと思うこともあるけれど、ハテ、いい思いとは、いったい、どんな思いだろう？

バーのホステスに、

「こちら、静かねえ！」

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook